

2025年度ケースプレゼンテーション論文提出期限：2027年1月31日(必着)

なお、投稿後に査読を行います。査読結果によっては、受理までに長期間を要することがありますので、ご理解の上、ご投稿ください。

* 電子媒体での掲載となります。

※原稿は、雛形のワードファイルを使用して作成してください。雛形のファイルは、学会ホームページよりダウンロードできます。昨年度までに投稿受理された他人のファイルを譲り受け、上書きして作成することは避けてください。投稿された原稿のフォーマットが著しく異なる場合には、査読に回すことができませんので、ご注意ください。

1. 原稿のまとめ方

- 1) 以下の順に1つのワードファイルとして作成する。
- 2) 表紙を第1ページとし、ページ番号を下段中央に表示する。
- 3) 原稿は以下の順に記載する。

- ① 表紙
- ② 本文
 - I. 緒言
 - II. 症例の概要
 - III. 治療内容
 - IV. 経過と考察
 - V. 結論
 - VI. 文献
- ③ 写真(図)の説明文
- ④ 写真(図)

2. 記載上の注意事項

1) 原稿の体裁

- ① A4判、横書き、ページ1枚に20字×20行で記載。フォントは明朝体、12pt.
- ② 口語体、新かなづかいとする。

※ 注意!

公益社団法人日本口腔インプラント学会用字用語規則(学会HPにて公開)

https://www.shika-implant.org/shika/wp-content/uploads/2024/02/202403_kisoku.pdf を守ること

【よくある誤用例】

〈誤〉・・・する事 → 〈正〉・・・すること

〈誤〉・・・する為 → 〈正〉・・・するため

〈誤〉1ヶ月後、〈誤〉1ヵ月後 → 〈正〉1か月後

- ③ 歯式は Zsigmondy & Palmer 法(いわゆるカギ付き歯式)あるいは、FDI(Two-digit system)方式の何れかとするが、本文中においては統一すること。
- ④ 数字は全て半角とする。
- ⑤ その他は本学会誌投稿規程に準拠する。

2) ページ数

- ① 原稿は10ページ以内、刷り上り2ページ以内とする。

- ② ページ数はおおむね次の要領とする。表紙は1ページ，Ⅰ．緒言、Ⅱ．症例の概要は1.5ページ，Ⅲ．治療内容は1.5ページ，Ⅳ．経過と考察、Ⅴ．結論、Ⅵ．文献は3ページ，図（写真）の説明文は1ページ，図（写真）は2ページ程度とする。
- ③ 写真は2ページ。デジタルデータをワードファイルに貼付ける。
- ④ 図（写真）は，縮小できるサイズに限りがあるため，刷り上がり2ページに収まらない場合は枚数を制限（削除を指示）することがある。

3) 表紙

1 ページ目を表紙として以下の事項を記載する。

- ・ 最上部に「ケースプレゼンテーション論文」と記載する。
- ・ 表題名（英文併記），著者名（英文併記），研修施設名（英文併記），住所，電話番号，FAX 番号，メールアドレスの順に記載する。
- ・ 表題名は原則としてケースプレゼンテーション発表と同じとする。
- ・ 共著者は認めない（発表者のみの単著論文とする）。
- ・ 所属研修施設名は学会に登録されている和文，英文表記とし，現在所属する一施設のみとする。

4) 緒言

最初に「Ⅰ．緒言」と記載する。改行して全角スペースを空けて，論文の発表目的を簡潔に記載する。

5) 症例の概要

1 行空けて最初に「Ⅱ．症例の概要」と記載する。改行して全角スペースを空けて，下記の内容について簡潔に記載する。

- ① 患者：年齢，性別
- ② 初診：西暦年月
- ③ 主訴：患者が最も訴えている事項（基本的には1つ。患者の訴えを簡潔に記載する。主訴は必ず患者の言葉で表現しなければならないという考え方もあるが，本論文では「冷たい水で〇〇がしみる」を「〇〇の冷水痛」など，患者の訴えが明確に表現できる場合に医学用語を限定的に用いることは認める。しかし，患者の訴えが医学的に明確でない場合には，原則として患者の言葉をそのまま用いる。〈例〉「噛むと〇〇がヒリヒリする」）
 なお「〇〇障害」は診断名となるので，「〇〇困難」，「〇〇不良」と記載する。〈例〉「咀嚼障害」→「咀嚼困難」，「審美障害」→「審美不良」
- ④ 既往歴：全身的，歯科的既往歴
- ⑤ 現病歴：主訴に関する初診までの病歴
- ⑥ 現症：全身所見，口腔内所見（歯，歯列，歯周組織，口腔衛生，咬合状態，咬合様式，顎機能異常の有無，その他）と検査所見等にわけ記載。それぞれの項目は全角スペースを空け「全身所見：」として記載する。
- ⑦ 検査結果：パノラマエックス線所見（必要に応じてデンタル，CT エックス線所見等），血液等臨床検査所見，その他
- ⑧ 診断名：残存歯を含めた口腔内の疾患名（歯の欠損以外に疾患が認められない場合には「〇〇欠損症」という診断名を認める。「〇〇欠損による咀嚼障害」という診断名を下す場合には，咀嚼障害の診断根拠（咀嚼能力検査等による客観的評価）が必要となる）

6) 治療内容

1行空けて最初に「Ⅲ. 治療内容」と記載する。改行して全角スペースを空けて、下記の内容について簡潔に記載する。

- ① 治療方針
- ② 治療計画, 治療順序
- ③ インフォームド・コンセントの内容
- ④ 処置内容: インプラント治療前処置 (抜歯, 歯周処置, 口腔衛生指導を含む), インプラント治療に関連する外科手術処置, その術後処置 (暫間補綴を含む) および補綴処置など
- ⑤ 使用材料などを記載する (使用されたインプラント体のタイプ, サイズ, 製造業者名等を必ず記載して下さい。論文中で, 機器や薬品などの名称を記す場合は, その一般的名称を記し, 続けて () 内にその製品名や型式, 製造社名, 都市名, 外国名を順に記す (例: インプラント体 (Nobel Replace Speedy® RP 13 mm, Nobel Biocare, Zurich, Switzerland).

7) 経過と考察

1行空けて最初に「Ⅳ. 経過と考察」と記載する。改行して全角スペースを空けて、下記の内容について簡潔に記載する。

- ① メインテナンス, リコール
- ② 上部構造装着2年以上経過後のインプラント治療部の状態, インプラント周囲組織, 咬合状態, エックス線所見による骨の状態, 口腔衛生状態など
- ③ この症例を通してわかったこと (留意した点, 注意すべき点, 問題点など) を文献などを参考 (引用) にして, 考察する。

8) 結論

一行空けて最初に「Ⅴ. 結論」と記載する。改行して一文字下げ, 下記の内容について簡潔に記載する。

- ① 緒言に対応して, 症例の結果から得られた事実を簡潔に記載する。 (「…と考えられる」などの著者の考えを述べるのは【考察】であり【結論】では記載しない。

〈記載例〉

【緒言】

『… ×××に対しインプラント義歯による補綴治療介入を行ったところ2年以上にわたり良好な経過を示したため報告する。』 (例)

↓ 〈内容に対応していること〉

【結論】

『インプラントによる補綴治療介入によって口腔機能回復を行ない, 2年2か月間メインテナンスを行っているが, インプラント周囲の骨レベルに変化はなく炎症所見も認められていない。このことにより, ×××に対するインプラント治療は有効な治療法であることが本症例においても示された。』 (例)

9) 文献

一行空けて最初に「Ⅵ. 文献」と記載する。学会誌投稿規定に準じて記載する。

- ① 引用順に記載し, 本文引用個所に肩付き引用番号を記載する。 (〈例〉… という報告¹⁾がある。)
- ② 記載順序, 「, 」 「. 」 「:」 「;」 の使用法に注意する。

- ③ 英文誌名の省略法に注意する。
- ④ 雑誌論文では「巻」までとし、「号」は記載しない。（例：日口腔インプラント誌 2000；13：105 - 108.）

※日本口腔インプラント学会誌の投稿規定にある文献記載方法を必ず確認のこと

10) 図（写真）の説明文

「VI. 文献」に続けず、改ページして以下の記載をする。

- ① 図（写真）に対応する説明文を図の番号順（図1，図2・）に記載する。
- ② 撮影年月（西暦）を記載する。（個人情報保護の観点から日付は記載しない）
- ③ 図（写真）の説明文はワードファイル1ページに収める。

11) 図（写真）

- ① 図（写真）はファイルにデータとして直接貼付ける。
- ② 症例概要報告書／ケースプレゼンテーション試験時に使用したものと同一、(1)術前口腔内写真，(2)術前パノラマエックス線写真，(3)上部構造装着後の口腔内写真，(4)上部構造装着後2年以上経過後の口腔内写真，(5)上部構造装着後2年以上経過後のパノラマエックス線写真が必要である。
- ③ 写真はインプラント治療部位がすべて確認できるものとする。
- ④ 写真が多く、学会誌 2 ページに収まらない場合には、文章の削除か、写真の数を減らすよう指示されることがある。

3. 査読

- 1) 論文は査読し、その結果に基づいて、著者に修正を求める。
- 2) 修正後、適切と判断された論文に対して受理の判定となる。
- 3) 試験委員会で受理された後、掲載証明書を発行する。

4. 掲載料

- 1) 掲載料は刷り上り 2 ページで 57,200円（税込）とする（別刷 50 部を含む）。写真はカラーのままオンライン掲載されるが、別刷はモノクロ印刷となる。ただし、別刷もカラー印刷とする場合は別途費用を申し受ける。
- 2) 追加の別刷りは 50 部単位で受付けるが、料金は別途に申し受ける。

5. 原稿の送り先・問合せ先

（ワードファイルをメールに添付する形で下記メールアドレス宛まで送る）送り主のメールアドレスに原稿到着確認のメールを配信しますので、必ず確認すること。二週間経っても確認メールが届かない場合には、下記連絡先に問い合わせる。

- 1) メールアドレス：casepre-impl@kokuhoken.or.jp
（財）口腔保健協会内 日本口腔インプラント学会ケースプレゼンテーション論文査読事務担当
- 2) 「ケースプレゼンテーション論文送付」とメールの件名欄に明記すること。
- 3) ファイルの容量は 5MB 以内とすること。
- 4) ファイル容量が大きく、送付困難な場合には、「データ便」等のファイル転送サービスを利用するか、上記担当者に直接相談すること。
- 5) 原稿送付後、二週間経っても原稿到着確認の連絡がない場合は、上記連絡先に問い合わせること。

以上